



ファイルシステムの管理

Workload Factory for NetApp Console

NetApp
October 07, 2026

目次

ファイルシステムの管理	1
NetApp Workload Factory でファイルシステムの容量を調整する	1
ファイルシステムの容量を手動で調整する	1
自動容量管理とinode管理を有効にする	2
NetApp Workload FactoryでFSx for ONTAPファイル システム設定を管理する	4
FSx for ONTAP ファイルシステムタグを管理する	5
FSx for ONTAP ファイルシステムの fsxadmin パスワードをリセットする	5
FSx for ONTAP ファイルシステムのスループット容量を更新する	6
FSx for ONTAPファイルシステムのSSD IOPSをプロビジョニングする	6
NetApp Workload Factoryでファイルシステムを削除する	7

ファイルシステムの管理

NetApp Workload Factory でファイルシステムの容量を調整する

FSx for ONTAP ファイルシステムのソリッドステートドライブ（SSD）ストレージ容量を調整して、NetApp Workload Factory でさまざまなアクティブなワーキングセットを持つワークロードのニーズに対応します。使用量が設定したしきい値を超えた場合は手動で容量を増やし、ワーキングセットを使用していない場合は容量を減らしてコストを削減してください。または、自動容量管理を有効にすることで、Workload Factory がニーズの変化に応じてストレージを段階的に追加し、手動監視の負担を軽減できます。



SSDのストレージ容量の削減は、第2世代ファイルシステムでのみサポートされています。

ファイルシステムの容量を手動で調整する

柔軟なファイルシステム容量を使用すると、ワークロードのニーズに合わせてファイルシステムの容量を動的に調整できます。

タスク概要

ファイルシステムの容量を変更すると、FSx for ONTAP ファイルシステムの IOPS に影響します。

ファイルシステムに対して自動的に"[プロビジョニングIOPS](#)"すると、SSD容量が1 GiB増減するごとに、IOPSは3 IOPSずつ増減します。

手動で"[プロビジョニングIOPS](#)"する場合は、ファイルシステムの容量増加に対応するために、IOPSの割り当てを増やす必要がある場合があります。

SSDストレージ容量の制限については、AWS FSx for NetApp ONTAPドキュメントの"[クォータ](#)"を参照してください。

開始する前に

ファイルシステムの容量を調整するには、まず[自動容量管理を無効にする](#)を実行する必要があります。

手順

1. "[NetApp Console](#)"にログインします。
2. メニュー  から、ワークロード > ストレージ を選択します。
3. ダッシュボードから、*SSD容量の調整*を選択します。
4. 容量を調整するファイルシステムを選択し、「続行」を選択します。
5. SSD容量の調整ダイアログで、*プロビジョニング済み容量*に数値を入力します。
6. 割り当てられた容量の単位を選択してください。
7. 「適用」を選択します。

自動容量管理とinode管理を有効にする

容量と inode 管理を有効にすると、NetApp Workload Factory は、時間の経過とともに容量のニーズが変化するに従って、FSx for ONTAP ファイルシステムの増分ストレージと inode（ファイル）をボリュームに自動的に追加します。これらの機能により、容量や inode を手動で監視する必要がなくなります。

これらの機能を管理できるアカウントは1つだけです。

自動容量管理と容量通知を有効にする

FSx for ONTAP ファイルシステムの最大サイズ制限まで増分ストレージを自動的に追加するために、自動容量管理を有効にします。ファイルシステムが一定の容量しきい値に達したときにアラートを受け取るように通知を設定します。

タスク概要

Workload Factory は、30分ごとに FSx for ONTAP ファイルシステムをスキャンして、増分ストレージを追加する必要があるかどうかを確認します。

すべてのFSx for ONTAPファイルシステムのSSDストレージ容量の最大値は524,288 GiBです。クォータの増加をリクエストするには、AWS FSx for NetApp ONTAPドキュメントの"[クォータ](#)"を参照してください。

開始する前に

始める前に、以下の点を考慮してください：

- このタスクを完了するには、Workload Factory で"[_表示、計画、分析_権限ポリシー](#)で認証情報を付与する"する必要があります。
- ストレージ容量の増加に合わせてボリュームinodeが増加するようにするには、リンクを関連付ける必要があります。["既存のリンクを関連付ける方法、または新しいリンクを作成して関連付ける方法を学びます"](#)。リンクが関連付けられたら、この操作に戻ります。
- AWSではSSD容量の拡張の間に最低6時間のクールダウン期間が設けられているため、データ移行中はこの機能を有効にしないでください。この制限により調整が遅れる可能性があるため、それに応じて計画を立ててください。

手順

1. "[NetApp Console](#)"にログインします。
2. メニュー  から、ワークロード > ストレージ を選択します。
3. ストレージメニューから、*インベントリ*を選択します。
4. 「インベントリ」から、自動容量を有効にするファイルシステムを選択します。

選択したファイルシステムのスループットとSSD容量の両方を表示する*Elasticity*グラフを探します。

5. *SSD*を選択し、次に*管理*を選択します。
6. 容量管理方法を選択してください。オプションは、増分モードと適応モードです。
 - 増分：しきい値で容量を一定量ずつ増加させます。
 - しきい値：Workload Factory通知サービスからの通知をトリガーするために、しきい値を増分増加よりも低く設定します。デフォルト値は70%です。

しきい値設定は、"[Workload Factory通知サービスを有効にしました](#)"場合にのみ使用できます。

- 段階的増加：FSx for ONTAP ファイルシステムの最大増加率を入力します。デフォルト値は80%です。

これは、Workload Factory が容量を増やすジョブをトリガーするしきい値です。たとえば、ファイルシステムの容量が 80% に達すると、Workload Factory は容量を増加させます。

◦ 適応型：履歴データに基づいて容量を予測し、変更します。

- ルックバック：分析期間を時間単位で設定して、容量予測のためにどれだけの履歴データを考慮するかを決定します。デフォルトは120時間です。
- 事前に計画を立てましょう：実際に容量が必要になる前に容量を増やすことができるよう、バッファ時間を時間単位で設定してください。デフォルトは48時間です。

7. *自動容量管理を有効にする*を選択し、認証情報の_表示、計画、分析_権限を付与します。

または、この機能を無効にしてください。ファイルシステムの容量を増やす必要がある場合は、まず自動容量管理を無効にする必要があります。

8. *容量通知を有効にする*を選択すると、設定したしきい値に容量が達したとき、およびWorkload Factory が自動的に容量を増加させたときに通知が有効になります。デフォルト値は70%です。

容量通知設定は、"[Workload Factory通知サービスを有効にしました](#)"また、自動容量管理が有効になっている場合にのみ使用できます。

9. 「適用」を選択します。

結果

追加の容量が必要かどうかを判断するために、ファイル システム スキャンが 30 分ごとに実行されます。

ファイルシステムの自動inode管理を有効にする

自動 inode 管理を有効にして、ボリュームあたりの inode（ファイル）の数を許容制限まで増やします。

タスク概要

Workload Factory は、FSx for ONTAP ファイルシステムを 30 分ごとにスキャンして、使用可能なボリューム inode を確認し、増分 inode を追加する必要があるかどうかをチェックします。カウントは、自動 inode 管理のしきい値に基づいて増加します。



Terraformユーザーの方へ：Terraformには、すべての操作をTerraform内で完了する必要があるという制限があります。Terraformではinode管理はサポートされていませんが、Workload Factoryコンソールで自動inode管理を有効にすることができます。

開始する前に

始める前に、以下の点を考慮してください：

- ボリュームinodeを自動的に管理するには、リンクを関連付ける必要があります。["既存のリンクを関連付ける方法、または新しいリンクを作成して関連付ける方法を学びます"](#)。リンクが関連付けられたら、この操作に戻ります。
- 自動inode管理は、Workload Factory通知サービスからの通知をトリガーする_警告しきい値_を使用して設

定できます。この機能を使用するには、まず["Workload Factory通知サービスを有効にする"](#)する必要があります。

- このタスクを完了するには、Workload Factory で["_表示、計画、分析_権限ポリシーで認証情報を付与する"](#)する必要があります。

手順

1. ["NetApp Console"](#)にログインします。
2. メニュー 、ワークロード > ストレージ > **FSx for ONTAP** を選択します。
3. FSx for ONTAPページから、*インベントリ*を選択します。
4. *インベントリ*で、自動inode管理を有効にするファイルシステムのアクションメニューを選択します。
5. 「管理」を選択します。
6. 情報の下にある、*自動inode管理*の横にある鉛筆アイコンを選択します。マウスカーソルを*自動inode管理*の行の上に置くと、ドロップダウン矢印の横に鉛筆アイコンが表示されます。
7. *自動inode管理*ダイアログで、以下の情報を入力してください：
 - a. 認証情報：ドロップダウンメニューから *Automate* 権限を持つ認証情報を選択してください。
 - b. *自動inode管理を有効にする*には、「有効にする」ボタンを選択してください。

または、この機能を無効にしてください。iノード数を増やす必要がある場合は、まず自動iノード管理を無効にする必要があります。
 - c. 警告しきい値：警告しきい値をしきい値の増加値よりも低く設定すると、Workload Factory通知サービスから通知がトリガーされます。デフォルト値は70%です。

警告しきい値の設定は、["Workload Factory通知サービスを有効にしました"](#)場合にのみ使用できます。
 - d. しきい値の増加：ボリュームあたりのinode（ファイル）数の最大増加率を入力してください。デフォルト値は80%です。
 - e. 段階的増加：iノード（ファイル）の数を段階的に増加させる割合を入力してください。デフォルト値は10%です。
8. 「適用」を選択します。

結果

ファイルシステムのスキャンは30分ごとに実行され、ボリュームごとにinode（ファイル）を追加する必要があるかどうかを判断します。

NetApp Workload FactoryでFSx for ONTAPファイル システム設定を管理する

NetApp Workload Factory で FSx for ONTAP ファイルシステムの設定を管理します。ファイルシステムのタグを管理したり、必要に応じて fsxadmin パスワードをリセットしたり、必要に応じてスループット容量を更新したりできます。

FSx for ONTAP ファイルシステムタグを管理する

タグは、リソースを分類するのに役立ちます。NetApp Workload Factoryでは、いつでもファイルシステムのタグを追加、編集、削除できます。

手順

1. "NetApp Console"にログインします。
2. メニュー  から、ワークロード > ストレージ を選択します。
3. ストレージメニューから、*インベントリ*を選択します。
4. *インベントリ*で、更新するファイルシステムのアクションメニューを選択し、*ファイルシステムタグの管理*を選択します。
5. *ファイルシステムタグの管理*ダイアログで、必要に応じてタグを追加、編集、または削除します。

ファイルシステムに適用できるタグの最大数は50個です。

6. 「適用」を選択します。

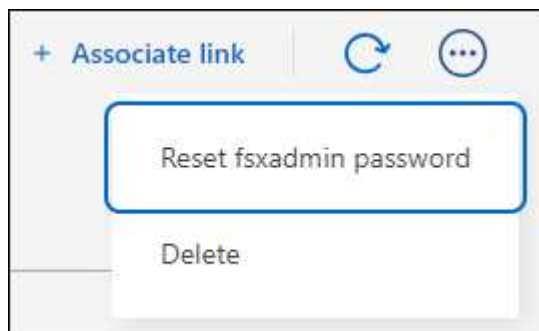
FSx for ONTAP ファイルシステムの fsxadmin パスワードをリセットする

必要に応じて、NetApp Workload Factoryでfsxadminパスワードをリセットします。

ファイルシステム作成時に代替ユーザーを指定した場合、AWSコンソールでのみfsxadminのパスワードをリセットできます。

手順

1. "NetApp Console"にログインします。
2. メニュー  から、ワークロード > ストレージ を選択します。
3. ストレージメニューから、*インベントリ*を選択します。
4. *インベントリ*で、fsxadminパスワードをリセットするファイルシステムのアクションメニューを選択し、次に*管理*を選択します。
5. ファイルシステムの概要画面から、「操作」メニューを選択します。



6. **fsxadmin** パスワードをリセット を選択します。
7. 「fsxadmin パスワードのリセット」ダイアログで、新しい fsxadmin パスワードを入力し、確認のためもう一度入力します。

8. 「適用」を選択します。

FSx for ONTAP ファイルシステムのスループット容量を更新する

必要に応じて、NetApp Workload FactoryのFSx for ONTAPファイルシステムのスループット容量を更新します。

スループット容量の制限については、AWS FSx for NetApp ONTAPドキュメントの["クォータ"](#)を参照してください。

手順

1. ["NetApp Console"](#)にログインします。
2. メニュー  から、ワークロード > ストレージ を選択します。
3. ストレージメニューから、*インベントリ*を選択します。
4. *インベントリ*で、スループット容量を更新するファイルシステムのアクションメニューを選択し、*管理*を選択します。
5. 「情報」の下にある、*スループット容量*の横の鉛筆アイコンを選択します。マウスカーソルを*スループット容量*の行の上に置くと、ドロップダウン矢印の横に鉛筆アイコンが表示されます。
6. スループット容量ダイアログで、必要なスループット容量を選択してください。
7. 変更を保存するには「適用」を選択します。

FSx for ONTAP ファイルシステムのSSD IOPSをプロビジョニングする

NetApp Workload Factoryで、FSx for ONTAPファイルシステムのSSD IOPSを自動または手動でプロビジョニングします。

タスク概要

FSxファイルシステムでは、SSDのIOPS自動プロビジョニングを有効にするか、IOPSを手動でプロビジョニングすることができます。

自動的にプロビジョニングされるIOPSは、1GiBあたり3IOPSとして計算されます。

IOPSを手動でプロビジョニングする場合は、["ファイルシステムの容量を増やす"](#)の前にIOPSを増やす必要がある場合があります。

IOPS制限に関する情報については、AWS FSx for NetApp ONTAPのドキュメントの["クォータ"](#)を参照してください。

手順

1. ["NetApp Console"](#)にログインします。
2. メニュー  、ワークロード > ストレージ > **FSx for ONTAP** を選択します。
3. **FSx for ONTAP** から、IOPSをプロビジョニングするファイルシステムのアクションメニューを選択し、*管理*を選択します。

4. 「情報」で、マウスカーソルを **IOPS** 割り当て の行に重ねたときにドロップダウン矢印の横に表示される鉛筆アイコンを選択します。
5. プロビジョニング済みIOPSダイアログで、*自動*または*ユーザープロビジョニング*を選択します。
6. 「ユーザープロビジョニング」を選択した場合は、希望する「IOPS値」を入力してください。
7. 「適用」を選択します。

NetApp Workload Factoryでファイルシステムを削除する

NetApp Workload Factoryでファイルシステムを削除するには、まずファイルシステムに関連付けられているボリューム、ストレージVM、またはレプリケーション関係をすべて削除する必要があります。

手順

1. "NetApp Console"にログインします。
2. メニュー 、ワークロード > ストレージ > **FSx for ONTAP** を選択します。
3. *FSx for ONTAP*から、削除するFSx for ONTAPファイルシステムのアクションメニューを選択します。
4. 「管理」を選択します。
5. 「概要」タブで、「アクション」メニューを選択します。
6. *Delete*を選択します。
7. FSx for ONTAPファイルシステムの削除ダイアログで、削除するFSx for ONTAPファイルシステムの名前を入力します。
8. 確定するには*削除*を選択してください。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。